

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

高校の部活動（女子）の顧問をしています。

先日のインドア大会（団体）で実際に起こったことです。

サーバー側が第1サービスを打って、副審はインと判断をしたので、何もコールもサインもしませんでした。レシーブをするプレーヤーがレシーブを返し、サーバー側がストロークで打ったものをレシーバー側のボレーが決まりました。

そのとき、サーバー側の監督から質問がありました。「正審がフォールトと言ったのではありませんか？」それに対し正審は実際にフォールトと言ったそうです。レシーバー側は聞こえませんでした。

副審の判定区分のところ（サーブスライン）にぎりぎりに落ちたボールでした。この場合は、ノーカウントになるのか、レットになるのか、どちらでしょうか？今回はどちらになってもファーストからなのですが……正しい判断はどちらですか？本当はフォールトと言ったときに「タイム」をかけるべきだと思いますが、生徒が審判だったので、このようなことになりました。

Answer

1. レットとノーカウントの違いを理解しましょう。
2. アンパイヤーの心得として特に次の項目を心掛けましょう。
 - ① 正審は規定に基づき大きな声で行うこと。
 - ② マッチのアンパイヤー同士の連携を密にすること。
 - ③ 他のアンパイヤーの判定区分については、その権限を侵さないこと。

いつも高校生の部活動をご指導いただきありがとうございます。
ございます。

この度は、サービス時にアンパイヤーが判定を誤ったためにプレーに支障が生じた。正審はフォールトとコールした様ですが、この場合レットになるのか、それともノーカウントになるのか、どちらでしょうか？というご質問です。

それでは、フォールトの場合は第2サービスからですが、「レット」と「ノーカウント」の場合の違いについて紐解いて見ましょう。競技規則第26条の第2項に、サービスがレットとなった場合は、「そのサービスをやり直す」とあります。そして、競技規則第36条（ノーカウント）には、インプレーにおいてノーカウントになった場合、第1サービスからやり直すものとする。ただし、サービスのレットは除く。とあります。今回のサービスがたまたま第1サービスであったから、レットの場合もノーカウントも第1サービスのやり直しとなっただけであり、第2サービス時のやり直しであれば、レットの場

合は第2サービスからになり、ノーカウント（インプレー中）の場合は第1サービスからやり直すこととなりますが、サービス時には有り得ない事です。正審がフォールトとコールしたが、協議の結果、サーブスラインぎりぎりにかかっている「イン」であれば、今回の正しい判断は「レット」で、第1サービスから行う事となる訳です。

ここで一つの事例を挙げて見ます。同じように団体戦の試合で、第2サービス時にアンパイヤーが判定を誤って、一瞬「しまった」と思い、正審は直ちにこのサービスをやり直させなければならぬと思った瞬間、正審の口から「ノーカウント」の用語をコールしていたのです。ここからやり取りが始まりました。『サービス側の監督が、立ち上がり「それでは第1サービスからですね」と質問すると、正審は、「いや第2サービスからです」と返答する。すかさず、監督から「ノーカウント」ですよ。正審は、ハイ「ノーカウント」です。監督から「それでは第1サービスからで良いですよ。』

ここで、指導の立場にあるコート主任も理解できてなく、あわててレフェリーのところへ走って行きました。レフェリーからは、サービス時の誤りは「ノーカウント」ではなく「レット」であって第2サービスからやり直すと言われ、正審は用語の誤りで混乱していた。気を取り直した正審が、コレクション「レット」とコールしたところ、相手の監督さんは理解しておられ、第2サービスからやり直してプレーが再開した、という事例がありました。

今回顧問から、タイムをかけるべきだと思うと言われていますが、事が起きてスポットライトが当たりますと、生徒だろうが大人だろうが、リプレーする時間が持てなく、一瞬頭が真っ白になり我を失う事があります。

さて、この度の質問に至った原因は、第1に正審の声が聞こえなかったことです。コールが両ペアのプレイヤーに十分聞こえていれば審判規則第16条（プレー

の停止)に基づき直ちにプレーを中断させることができたはずですが。次にアンパイヤー同士で判定が異なった場合の対応です。サービスラインは副審の判定区分ですので、正審は副審の判定を確認してからコールをしなければなりません。(他のアンパイヤーの判定区分については、その権限を侵さないこと。)しかし、今回は副審の判定を確認せず正審がフォルトのコールをしてしまって、サーバー側の監督から質問が出されたわけです。質問に対し正審は、フォルトのコールをしたことを認めただけですので、直ちに「タイム」をかけ副審と協議(マッチのアンパイヤー同士の連携を密にすること。)し、サービスの痕跡を確認することになりますが、インドアーの場合痕跡の確認は難しい場合がありますのでアンパイヤー同士で結論を出すことになります。

今後とも「アンパイヤーの心得」を生徒さんにも十分理解して頂くようご指導をお願いします。

【関連規則】

競技規則第26条(サービスのレット)第1項(3)ア、第2項

競技規則第36条(ノーカウント)第1号

審判規則第7条(アンパイヤーの心得)(3)オ、キ、ク 第8条(アンパイヤーの判定区分)

第16条(プレーの停止)

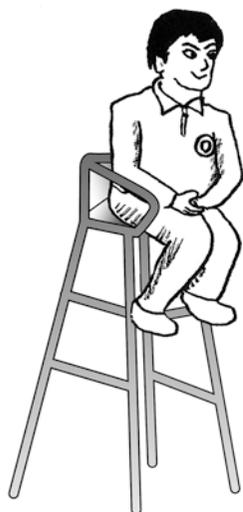
【ジュニア審判マニュアル】

競技規則について 7. サービス(6) サービスがレット(そのサービスのやり直し)となるのはどんなときか? ③(ア)、④
12. ノーカウントになるのは」どんなときか?(1)

審判規則について 1. アンパイヤーの任務と心得(3)、(12)、(14)、(15)

2. アンパイヤーの判定区分 4. 判定の確認と連携

7. 間違ってインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたら?(プレーの停止)



サービスラインは副審の判定区分だから副審のサインやコールを確かめてから判定しよう

